

# 196人サクラサク



## 倍率1.52



翠巒  
Mini Press  
第160号  
2019/4/10

編集・発行  
高崎高校新聞部

### 新入生歓迎号



## 「怖くて見られなかった」

### 後期選抜合格発表

3月15日、後期選抜の合格発表が行なわれた。多くの受験生が家族と共に本校を訪れ、合否を確認した。結果が発表された後は、記念写真を撮影したり、合格者同士で喜びを分かち合ったりする姿が見られた。合格を知った直後に、今の気持ちや高専でやってみたいことなどを聞いた。すると、複数の新入生が文武両道を達成したいと答えた。これは、高専の目指すものを新1年生たちが実現したいと考えていることの表れだろう。高校生活が始まれば、1年生たちは中学校とは比べものにならないくらい大変だと感じるはずだ。そんな毎日の中で、入学当初に思い描いていたことを体現できず、悲観的な考えに陥ってしまうことがあるかもしれない。もし、そうなってしまったら、高専に合格するために粘り強く勉強することができたときを思い出してほしい。(磯貝)



#### 設楽嶺君(藤岡小野)

テレビ・ゲームを自主的に制限した。入学試験で漢字の読みを間違えてしまつて悔しい。合格したことが分かったときの気持ちは上手く言い表せない。

#### 林俊太郎君(安中第一)

途中で体調を崩してしまつたが、勉強した甲斐があった。嬉しい。教師になるために大学進学に向けて頑張りたい。

#### 城田浩輝君(伊勢崎第三)

国語が苦手だった。時間を効率的に使えるように努力した。ゲームは禁止。自分で使えないようにした。前向きでいるように心がけた。

#### 山崎公太君(大類)

受験のことを考えすぎてお腹が痛くなったこともあった。合格できて素直に嬉しい。勉強と部活を両立できるように頑張りたい。

## ～求む! 新聞部員～



高崎高校には39の部活動がある。中学校には無かった部活動も多く、どれに入ろうか迷っている者もいるだろう。そこで今回は我々「新聞部」を紹介したい。

新聞部の魅力は「様々な経験ができる」ことだ。現代社会では多くの情報が回り、気になることがあれば簡単に「知る」事ができる。しかし、それは表面的で薄い知識を身につけただけに過ぎない。

#### 田中集翔君(豊岡)

塾に缶詰状態だった。中学校では柔道・相撲部に入っていたが、高校では今まで所属していたことのない部活に入りたい。

#### 弓場拓人君(高崎第一)

塾で、入るのは厳しいと言われたことがあり、安心できなかった。剣道をやっている。文武両道を目指したいと思っている。

#### 佐藤瑠威君(中尾)

英語が苦手なので、長文を読んでいる分らない単語があれば覚えるようにしていた。友達をできる限り作りたいと思う。

#### 平野壮一郎君(藤岡北)

11月までバレーボールをしていたので、勉強との両立が大変だった。高専のバレーボール部に中学校の先輩がいる。一緒に全国大会を目指したい。

#### 高安一輝君(藤岡西)

暗記事項の多い社会が苦手だった。高専では硬式野球部

い。新聞の取材では、直接現場に行き、当事者や専門家の話を聞く。同じ「知る」にしても、実際に生の声を聞くことで、何倍も見識を深めることができる。そして、それが自分の興味に繋がると、自身の世界を広げることになるのだ。

群馬県新聞コンクール知事賞(一位)、全国高校新聞年間紙面審査賞、全国新聞コンクール奨励賞が今年の実績である。もし興味を持ったならば、ぜひ理科棟一階の新聞部室を訪ねてほしい。情報社会の現代だからこそ、新聞制作に一度携わってみてはどうだろうか。(部長 林 一哉)

に入りたい。中学でも野球をしていた。それから、授業についていけないように頑張りたい。

#### 箱田向哉君(藤岡西)

11月まで駅伝部で活動していたので、勉強との両立が大変だった。高専の陸上部に入りたい。また、国立大学に行きたい。

#### 石井創太君(塚沢)

嬉しい。勉強が好きでなかったが大変だった。東京大学医学部に進学したい。

#### 高橋陽大君(南八幡)

受験中に閉所恐怖症になってしまい、克服するのが大変だった。サッカー部に入りたい。そして、翠巒祭も積極的に盛り上げたい。

#### 五十嵐亮太君(中尾)

2月にあった中学校のテストで点数が悪かったので、ずっと数学をやらなければならなかった。中学1年の頃から志望していたこともあり、願いが叶って嬉しい。

# 楽しむことを第一に 和太鼓部第十一回定期演奏会



拾肆代目漢組による演奏

3月16日、高崎高校和太鼓部第十一回定期演奏会が行われた。これは拾肆(じゅうよん)代目漢(おとこ)組にとって最後の演奏会である。会場となった高崎市文化会館では開場前に長蛇の列ができており、開演時には客席のほとんどが埋め尽くされた。

演奏会では、第一部の「天地」に始まり、第三部の「天龍」まで、予定されていた通りの13曲が演奏された。曲の間には、ユーモラスな拾肆代目漢組のメンバー紹介や部員同士での掛け合いが会場を沸かせていた。さらに、閉幕後にアンコールが起ると、パンフレットには記載されていない14曲目となる「弾打」が披露された。演奏者たちは赤い法被(はっぴ)から一変したカラフルな衣装で現れ、会場は終始観客の手拍子が鳴りやまなかった。和太鼓部部長の小代樹君(3年)は、自身最後となった今回の演奏会について、

「まずは演奏会を大成功で終えることができたことに満足している。ただ、まだ続けたい思いが強く、これで引退という実感が無い」と語った。また、2年間の部活動を振り返って、「部長として人前に出たり、裏方の仕事をしたりする中で成長することができた。また、和太鼓部全体としても、始めの頃に比べて練習に対する姿勢が積極的になっていて、メンバーも同時に成長していると実感した。思い返すと、メンバーのみんなとは、本当に良い思い出ばかり作ることができた」と笑顔で話した。最後に、次代の和太鼓部を担う2年生に向けて、「まずは、和太鼓を全力で楽しむこと。決して無理をせず、楽しみながら取り組んでいってほしい」とメッセージを送った。(池田)

## 高生憩いの場 ——購買——

高高には、給食が無い代わりにパンや焼きそばなどが売られる購買がある。場所は、1年2組と3組の間の階段を上がり、渡り廊下を直進した

先にある。営業時間は、2限終了後の10分休みから昼休みまでで、多くの高生で賑わう。

「購買のおばさん」こと瀬川さんは、「人気商品は、カレーパンとパリパリチーズ。チョコマーブルとフランスエビもお勧めです。フランスエビは噛みごたえがあるので、顎が鍛えられて、学力向上に繋がると思っています」と話した。さらに、「購買のパンは学生割引で、



多くの生徒で賑う購買

定価より約60円値引きされています。また、購買の近くの電子レンジで食べ物温めることができます。ラスクやマフィン、たまごパンといった菓子パンや、ピザや照り焼きチキンなどの惣菜パンのように多くの種類のパンを売って、利用者のみなさんが飽きない工夫をしています」と購買の魅力を語った。

最後に新1年生に向けてメッセージを送った。「2、3年生がいても気兼ねなくどんどん購買に来てほしいです。みなさんのご利用をお待ちしています」。(齋藤)

## 不適切行為とSNS

近頃、ソーシャルネットワークやインスタグラム(SNS)に投稿される不適切動画が問題となっている。商品や口に含んで吐き出したり、料理中の中華鍋から上がる炎で煙草に火を付け喫煙するといった、従業員としてあるまじき行為をする動画が発信されているのだ。その動画は不特定多数の人によって拡散され、企業・店舗に社会的なイメージダウンや巨額な損害を与える。東京都多摩市に店を構えていたそば店「泰尚」はこの動画による風評被害で閉店となった。不適切動画をSNSに発信し損害を出すこの行為は、主にアルバイトが行なっていることから、「アルバイトによるテロ行為」として

「バイトテロ」と呼ばれている。「バイトテロ」の要因は主に2つある。1つ目は、人気を集めようとするからだ。動画を撮影したアルバイトは、従業員としてありえない行為を、ちょっとした悪ふざけとしてやることに面白さを見出していた。それを投稿すること

うことで、投稿した動画は24時間で自動削除される。投稿者のプロフィール(特定の人の投稿を自分のホーム画面に表示されるよう設定する人)は、彼らと現実で実際に交流のある友人がほとんどであるから、世間に広まって店に知られることはないだろうと油断したのだ。しかし、実際には動画を面白く思った友人が拡散することで、不特定多数の人にまで知れ渡っていった。「バイトテロ」は、度が過ぎた行動をSNSの脅威を考えずに投稿することで起る問題だ。一人一人が行動に責任感を持ち、SNSと注意して付き合っていくことが必要である。(廣瀬)

## TWOSピリットを胸に 第60回定期演奏会



池永先生・遠山先生・中嶋先生も参加した。吹奏楽部員による照明を用いた演出やダンスで会場は盛り上がった。

第一部では「アルセナール」などの名曲を4曲披露した。特徴的なリズムの「ジャコンヌ」は神聖な世界観が表現されていた。部長の堀口亮太君(3年)はこの曲について「ここ数年で1番難しい曲」と話した。

第二部はアンサンブルステージとジャズステージが行なわれた。アンサンブルステージでは「Lemon」・「Don't stop me now」などの全4曲を披露した。「ガールズ&パンツァー」組曲では3年生全員の息の合った音色が会場全体に響き渡った。ジャズステージでは「Arianza」などの全3曲を演奏した。高高ジャズの真骨頂「Jumpin' jack」には観客も大興奮で、拍手を打った。

第三部では過去に話題を呼んだ曲を6曲演奏した。謎のダンス集団が会場を盛り上げた。「インベーターインベーター」や「Mr. インクレディブル」・「モデル」などを演奏した。また、「U.S.A」のダンスパフォーマンズでは西村先生を始めとするダンス陣がキレイのダンスを披露した。さらに、部長挨拶で堀口君は「感謝の気持ちを持って、最高の演奏をお客様にお届けす

るといいう「TWOSピリット」は代々私たちに受け継がれています」と還暦を迎えた定演への思いを語った。アンコールでは「The sound of music」と校歌を演奏し、吹奏楽部員が肩を組んで熱唱した。定演終了後、堀口君は「お客様に喜んでもらえてほっとしている。たくさん練習した甲斐があったと思う。今後は少しでも長く部員と演奏できるように、西関東大会へ向けて頑張りたい」と語った。

また、次期部長の菅家太一君(2年)は「私は高校に入学してから吹奏楽を始めた。練習を重ねた成果が発揮できて良かった。来年は今年を超えるくらい気持ちで、お客様により楽しんで頂ける定演にしたい」と話した。(宮内)